

2 廃業予定から経営継続となったオーエスキー病陽性農場の清浄化への取組

川越家畜保健衛生所

○馬場 未帆・木下 明子

I はじめに

管内では、オーエスキー病(以下「AD」)防疫対策要領に基づき、清浄化対策に取り組んできた結果、平成25年度、野外抗体陽性(以下「陽性」)農場が、A農場(一貫経営)1戸を残すのみであった。A農場は、平成26年度廃業予定であったため、他の地域も含め、このままADワクチン接種の中止を検討しながら、平成27年度までにAD清浄化を達成する見込みであった。しかし、平成25年11月に、畜主の諸事情により、廃業予定から一転して経営継続になったため、急遽、清浄化に向けた濃密な指導をしてきたので報告する。

II A農場の概要

経営継続となったA農場の飼養規模は、肥育牛800頭、養豚が、繁殖豚♂5頭、♀60頭、肥育豚600頭の複合経営である。労働力は、畜主、息子2名、従業員等4名で行っている。図1で示すように豚舎は、肥育牛舎の2階部分のみで、他は、肥育牛舎となっている。

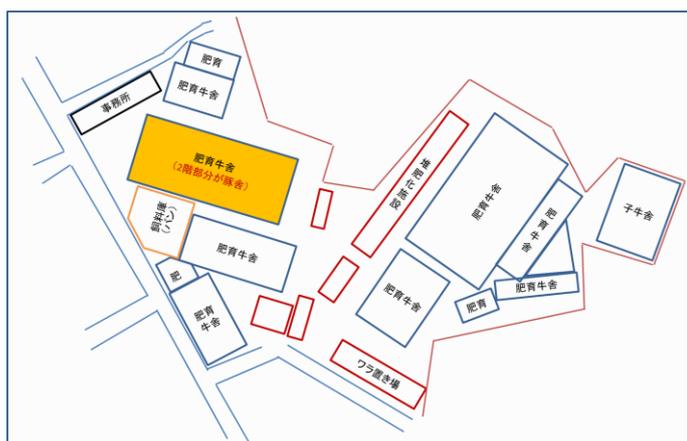


図1 A農場の畜舎配置

III ADワクチン接種及び陽性率

A農場の年間ADワクチン接種は、図2で示すように、平成19年度には1200頭接種していたが、廃業を決めていたためか、平成20、21年度と接種頭数が減少し、平成22年度以降は、ワクチン接種を中止していた。また、AD検査の陽性率を見ると、平成19年度に64%、平成20年度には47%、平成21年度には40%と減少傾向を示していたが、ワクチン接種を中

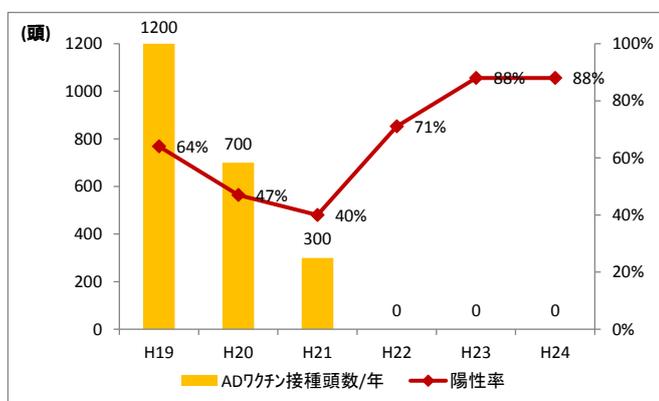


図2 ADワクチン接種及び陽性率

止していたので、平成22年度71%、平成23年度88%と上昇した。また、H24年度は、平成23年度陰性であった繁殖母豚6頭のうち4頭が陽転し、肥育豚95%と高度汚染状態となっていた。更に、廃業を決めていたため、家保の接種指導にも難色を示し応じていなかった。

IV 問題点と対策

A 農場は、ワクチン接種を中止していたため、豚担当の従業員に、ワクチン接種プログラムパンフレット(図3左側)を配布し、繁殖豚は3か月毎に1回、肥育豚は2回接種での全頭接種指導を実施した。また、高度汚染状態での繁殖候補豚♂1頭、♀8頭を導入していたため、導入後及び導入1か月後のワクチン接種、陰性農場からの導入の徹底を指導した。さらに、業者納品時に配布されたワクチン接種表(図3右側)に記録し、立入時及び、業者からの報告で確認した。

衛生対策では、清掃のみが主であったため、強化として、出入り口の石灰消毒等を指導した。陽性繁殖豚♀について、畜主は、7~8産後の出荷希望であったため、陽性豚の計画的淘汰を指導した。繁殖豚♀の生産管理カードに、目でわかりやすく区別できるように、陽性豚のみ、赤いテープを張った。(図4)この生産管理カードで、個体番号、種付日、分娩予定日、産次数等がわかるようになっている。また、管理記録がなかったので、毎月豚舎内の状況を把握するために、毎月1回立入を実施し、個体管理、ワクチン接種、ピッグフローを確認した。

繁殖豚等の検査は、種付け直後の採血を拒まれたため、出荷肥育豚(以下「と場採血」と分娩後の採血で対応

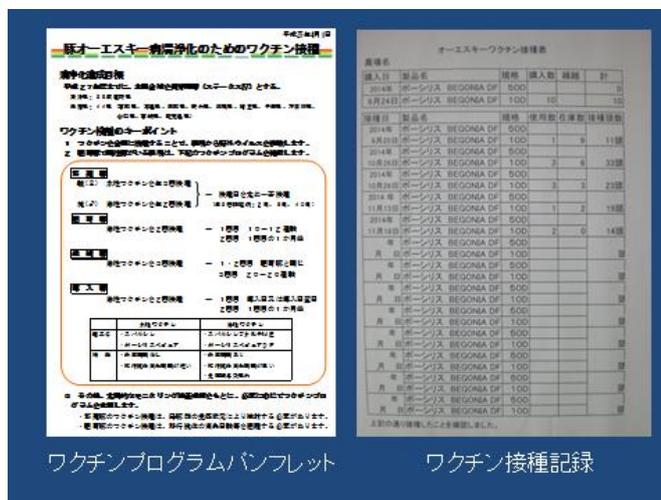


図3 ワクチンパンフレット及び接種記録

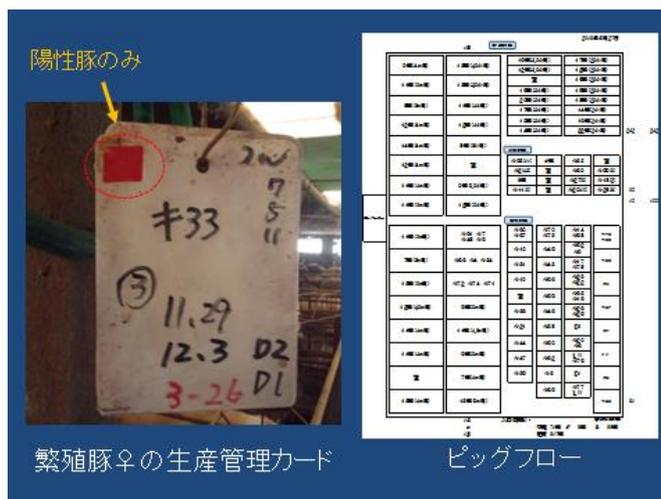


図4 生産管理カード及びピッグフロー



図5 豚舎の状況 (H25.11)

した。

経営継続判明直後(平成 25 年 11 月)の豚舎内状況は、図5に示したように、廃業予定であったため、肥育豚房、繁殖豚房の一部が取り壊されていた。飼養頭数は、陰性農場からの繁殖豚♂1頭、陽性繁殖豚 12 頭、肥育 216 頭であった。

表1 肥育豚抗体検査結果

年月	検査頭数	陽性頭数	陽性率
H25.12	18	18	100%
H26.3	15	8	53%
H26.4	14	4	29%
H26.5	17	4	24%
H26.8	8	0	0%
H26.9	13	0	0%
H26.12	18	0	0%
H27.7	14	0	0%
H27.9	25	1	4%
H27.10	23	0	0%
H27.11	25	0	0%
H27.12	25	0	0%

V 結果

陽性繁殖豚♀12頭は、平成 27 年 5 月には、全て出荷淘汰され、と場採血の肥育豚抗体検査結果は、表1に示したとおり、ワクチン接種始めの平成 25 年 12 月は、100%の陽性率であったが、平成 26 年 3 月 53%、4 月 29%、5 月 24%と減少し、8 月、9 月には、0%となり、陽性が確認されなくなった。

平成 27 年 5 月に、陽性繁殖豚の最終出荷淘汰され、それ以降、平成 27 年 9 月に陽性豚の移行抗体と思われる 25 頭中 1 頭の 4%の陽性率以外は、10 月、11 月、12 月と確認されなかった。

平成 27 年 12 月の豚舎状況は、図6に示したように、飼養頭数は、導入繁殖豚♂ 5 頭、導入繁殖豚♀ 66 頭、肥育豚 589 頭と増加した。

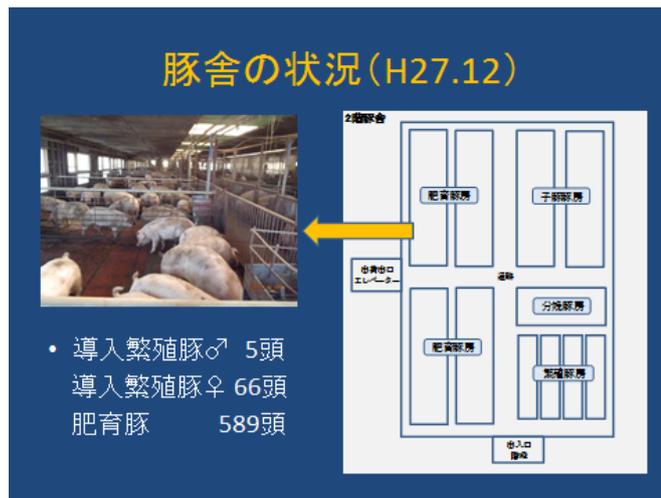


図6 豚舎の状況 (H27.12)

VI まとめと今後の対応

高度な汚染状態でも、畜主らとの信頼関係を保ちながら、ワクチンの全頭接種、陰性農場からの導入の徹底、定期的な抗体検査による農場内のウイルスの動きの監視、陽性豚の計画的な淘汰等に取り組んできた結果、陽性豚の淘汰が終了し、抗体検査の陽性が確認されなくなり、AD 清浄化が見えてきた。今後は、継続的な抗体検査による清浄性の確認及び地域でのワクチン接種中止の検討をし、早期に清浄化を目指していく。